アガペワールド

ロンドン
恵子・ホームズ
35 Leyburn Gardens
CR0 5NL　London
England
E: agape.kingdom@gmail.com
Tel: +44 (0) 7968 057 059
www.agapeworldreconciliation.org

小菅啓子
アガペワールド日本 代表:
横浜市南区中村町5-308-12
E: victory8068@gmail.com
Tel: 090-1266-3390
www.agapeworld.org.uk

AGAPE WORLD
Working for Reconciliation

写真： 恵子の家の窓より

この夏、英会話の習得に弟の孫娘（那々美、１５歳・左）と彼女の友達（乃愛・１６歳）がロンドンを訪れました。熱心に国際色豊かな英会話の学校に通い、素晴らしい観光も毎日あり、英国文化も学び、収穫を身につけすっかり英国が好きになり、「また来たい」と繰り返しながら帰りました。若い時に英語を身につけるといいですね。

写真：ロンドンのレストランにて。

夏のパラダイス・ランチ 初めて参加して

ヘレン・ヘインズ

亡き父の遺品として出てきた1枚の日本兵（右）の写真ーー。その1枚の写真がこれ程までのアドベンチャーに繋がるとは誰が想像したでしょうか。アガペ・ワールドとの出会い、そして、それを機に一気に人脈が広がったのです。　7月の初め、ウィンブルドンで開かれたアガペ主催の「パラダイス・ランチ」という会に、私たちは生まれて初めて、招かれました。むろん　お昼をご馳走になるのでしょう。お宅に上がるには、靴を脱がねばならないことは知っていました。でも、それが、どんな会なのか、また何を期待して良いのか、全く見当がつきませんでした。

感想は、ワンダフル！
私も娘のタリも、素晴らしい午後のひと時を過ごしました。

そこで私たちは、実に沢山の興味深い方々や親切な方々に、とても暖かく迎えられました。
「（日英二国間の）友好や和解」がその理念である、アガペの活動に携わる人たちです。

私の父、故アーネスト・ビクター・ヘインズ（写真左下、当時）はシンガポール陥落後に日本軍の捕虜となりましたが、同じような経験を持つ方や、ご家族の話を聞くのはとても刺激になりました。

極東捕虜となった者の多くがそうであったように、私の父も、チャンギでの捕虜時代の経験を語ることは殆どありませんでした。

ところが、パラダイス・ランチで私は途端に、同じような歴史の体験者の輪の中にいるではありませんか。　最後の座談会では、本当に沢山のことを学びました。　私自身もアガペとのアドベンチャーの始まりが、2004年に父が死去した時に遡ることを話しました。

冒頭の写真を父の遺品の中に見つけた時のことです。

写真には「トベ」とだけ記されていました。母は、この「トベ」という日本兵が捕虜時代の父を助けてくれたとおぼろげながら記憶していました。

母が逝去した2017年、もう１つの発見がありました。この日本兵のもう1枚の写真と「Y.トベより、ヘインズへ」と記された紙片です。

父は、この写真を60年以上に渡って、大切に保存していたのです。

父の生涯にとって如何に重要なことだったかを思わずにはいれらません。この日本兵がいなければ、私や兄弟も、私たちの家族そのものが存在しなかったのかもしれません。

この日本兵トベさんのご家族が今もいらっしゃることを、恵子は探し当ててくれました。
私たちはアガペ主催の癒しと和解の旅で来年秋に日本を訪ねますが、トベ氏家族との対面が叶うよう、心から願っています。実現したら、この上なく光栄なこととなるでしょう。

アガペ・ワールドには感謝の言葉がありません。　暖かい歓迎、深い友情、　おもてなしの心に、パラダイスランチで振る舞われた美味しい手料理の数々…。

もう来年が待ち遠しくてたまりません。

後記：この10月、故戸部日本兵のご子息、戸部敬宏氏に、啓子、さゆり、恵子が、群馬県館林市でお目にかかることができ、ヘレン夫妻との出会いが決まりました。来年11月、歴史的な喜びの対面となります。

2020年和解と癒しの旅　概略

１０月

２７日（火）山口県へ。市役所表敬訪問

２９日（木）大嶺 Memorial 訪問　簡単なMemorial Service　町の方々との懇談

３０日（金）長崎。歴史の後を巡ります。

３１日（土）平和公園訪問。

１１月

１日（日）平戸へ。

２日（月）平戸

３日（火）京都

４日（水）京都

５日（木）夜　紀和町着

６日（金）入鹿中学訪問

７日（土）入鹿ボーイズ追悼式

８日（日）東京へ出発

９日（月）慶応大訪問

１０日（火）英国大使館（予定）

１１日（水）関東学院大訪問。保土ヶ谷英連邦軍人墓地。

１２日（木）羽田発。ヘレン夫妻は群馬県で捕虜だった父親を助けてくれた元日本兵のご子息、戸部敬宏氏に面会。

平戸について

平戸は、英航海士ウィリアム・アダムス William Adams　で知られる。アダムスを乗せたリーフデ号が漂着した日本は、折も折、天下分け目の関ヶ原の戦いの約半年前という騒乱期。アダムスは日本初の青い目のサムライとなり、江戸時代初期には徳川家康の外交顧問として仕えた。

アダムスの日本語習得スピードは速く、家康との初対面で良い印象を与えたと見られる。家康はポルトガル人の通訳をアダムスに置き換え、外国使節との対面や外交交渉の際に通訳を任せたり、助言を求めたりした。

日本名は、三浦按針（みうら・あんじん）。職業である水先案内人の意味が「按針」という名に表れる。
「三浦」姓は与えられた領地の三浦郡にちなむ。

オランダ東インド会社での職務経験などから、
平戸とオランドや英国との関係構築に貢献した。
1620年5月16日に55才で死去。平戸に埋葬されている。

紀和町

瀞峡

アガペワールド の方々からの多大な寄付により、小菅啓子が英国を訪れることができ、ホームズと共に、多くの旧友を訪問することができました。

ウエールズに住むイオナから、「今年の初頭、高齢者用ホームにバイロンと共に入居したが、バイロンは、すでに亡くなり、今は一人になってしまった」という手紙を受け取り、今回の懐かしい旧友たちの訪問となりました。今度はダニエル・ホームズの運転で、車で６時間離れた、ウエールズにと急ぎました。

イオナ・ウイリアムズ

バイロンが大好きだった10歳年上のリン兄が、ボルネオ死の行進で死去。以後、バイロンは日本人とは一切かかわらないと公言していました。

けれども1996年、彼の友人でウエールズの大学教授が

ホームズのことを知り、彼らのところに連れて行き、和解ができ、その後は家族としての付き合いで何度も訪問しあいました。2000年の春、彼らは「心と癒しと和解の旅」に参加し、日本で多くの人たちの謝罪を受け赦し、かつての怒りや痛みから完全に自由にされました。バイロンとイオナはカーディガン湾のそばにある庭の広い家に日本人を招き、よくもてなしてくれたものでした。

イオナの希望で、彼女が結婚当初住んでいた家の前を通り、懐かしい海岸沿いの街並みに沿って走りました。イオナのお気に入りのレストランでランチをしているとき、彼女が正確に暗算するので、その明晰な頭脳に私たちは賞賛しました。

スチュアートとモニークに再会したいという私たちの願いもかなえられました。　モニークの亡き父ジャック・カプランは、日本批判でほとんど毎月地方紙に登場し、英国元捕虜たちの間で有名でした。1988年、当時の天皇皇后両陛下がバッキンガム宮殿に馬車で向かう時に、ジャックはカンタベリーから来て、天皇と世界の人たちが見ている中、日本の旗に火をつけて燃やしたのです「私がどうしてそんなことをしたのか、その理由をあなたに知って欲しい」とジャックは私に電話をしました。ダニーの運転で私はカンタベリーに向かいました。
ジャックの奥さん、クラウディアはチャーミングなフランス人でした。もうお気づきになられたでしょうが、もちろん私たちは友達になりました。2003年、彼は医者からの「飛行機に乗るのは危険」という言葉を無視し、来日しました。日本ではジャックは普段とは違って沈思黙考していました。熊野市のお別れパーティーでは皆と一緒に着物を着て舞台でポーズをとりました。帰国してからジャックは以前とは180度変わって、メディアを通して日本賛辞を伝え始めました。日本から彼に届く手紙には、自分のタイプライターで逐一返事を書きました。ジャックとクラウディアは何度か日本人を家に泊めてくれました。
モニークとスチュアートは「和解の旅」に参加し、新しく友人となった人たちを訪ねるため、数年後個人的に再び、日本各地を訪れました。彼らは来年は在英日本大使館の和解の集まりに出たいと願っています。

スチュアート・モニーク・恵子・啓子

ジャック（左）とチャールズ（右）和解の旅で。2003年

デニス・モーリーは、この10月に100歳の誕生日を迎えたのですが、私たちの訪問は７月でした。彼は元捕虜で家族とともに今はグロスターシャーにある素敵な街に住んでいます。私たちは近くのB&Bに泊まりましたが、そこに行く前にデニスと彼の娘のデニーズとしばらくおしゃべりをしました。　翌朝は、デニスのひ孫で今22歳になり、新婚のリオニィと再会しました。2007年、88歳のデニスはデニーズとリオニィとともに「和解の旅」に参加しました。リオニィは11歳でした。デニスは以前いた神戸に帰って来たことに心が高鳴っており、当時の経験をメディアの人たちに活き活きと語っていました。

彼が働かされていたところは現在小さな郵便局になっています。リオニィはあと1年を残す学業の合間、チェルトナム病院で見習い看護師として働いています。夫のジョンは教会で若者担当のリーダーをしています。日曜礼拝の後、私たち6人は素敵なレストランに行きました。デニスは杖を使って歩きました。彼は「過去には囚われない」と言いきり、前向きに生きています。彼は二階にある自分の寝室まで階段を自力で昇り降りします。先日お誕生日のお祝いに、電話しましたら、100歳になったデニスの元気な声が返って来ました。

マリアン・アボット彼女の父親は、熊本の捕虜収容所で死去。７月に晴恵、啓子、恵子の３人は、マリアン・アボットを訪問しました。彼女は80歳以上になっており、ケントのチルハーストにある素晴らしい高齢者住宅に住んでいます。マリアン（写真右）は、1995年の訪日の旅で、保土ヶ谷の英連邦墓地にある自分の父親の墓参りをしたことで、赦しと和解によってこれまでのことにけじめをつけられた、と何度も繰り返されました。

パム・レイヴンはタビストックにある家に私と啓子を招いてくれて、私たちはそこに3泊しました。彼女は90歳を超えていますが、運転し、私たちを30分ほど離れたプリマスの駅まで迎えに来てくれました。そこは静かで心地よい小さな町で、移り住みたくなるようなところでした。タイメン鉄道で生き地獄を経験した彼女の夫は、生還できましたがすでに亡くなっていました。

1994年、パムは捕虜仲間のニュースレターを読んで「心の癒しと和解の旅」のことを知り、躊躇しましたが私に電話をかける決心をし、和解の旅に参加しました。1997年の3月、私たちは平戸に到着直後に、予期せず、平戸の歓迎スピーチを受けました。快活でユーモアに富むパムは、それに対して即座に返礼のスピーチをしてくれました。以来私たちは何度もそれぞれの家を訪問し合う仲になりました。タビストックでは、パムは私たちを穏やかで緑濃き丘や山々を見せに車を走らせました。4日間の滞在中私たちは笑い通しでした。

腰を痛めて歩くことが困難になったので私は一緒に行かれませんでしたが、講師であり文筆家でもあり、熱心なアガペワールド支援者である

マリオン・モールを啓子が一人で訪問しました。博物館や公園に案内されたり、ベッドフォードの美しい川べりを散策したり、本の虫、マリオン、と長いおしゃべりをしたり、マリオンの心のこもったおもてなしで啓子は素晴らしい3日間を過ごしました。

小菅のこちらでの活動は上記以外にも、大使館のレセプション出席、パラダイス・ランチの手伝い、出席者との親しい交流、ロンドンの理事とのMeeting,その他数々の働きがあり、日本のアガペワールドの良き紹介となりました。寄付をくださった方々に心から感謝いたします。多くの方々に喜んでいただけました。

アガペ岩手の旅、そして関東学院での講演会の報告

藤田美代子

神様の恵み深い導きにより、10月11日から13日まで、恵子ホームズ、小菅啓子と共に岩手県紫波郡紫波町日詰にある日本基督教団日詰教会を訪問し、素晴らしい経験を与えられました

私の故郷は岩手の釜石で、日本で初めて洋式高炉での鉄の生産に成功した日本の近代鉄産業発祥の地です。戦時中は多くの連合国捕虜の方たちが、釜石郊外の大橋鉱山で鉄鉱石採掘に従事していました。アガペに関係の深いオランダ人リンダイヤさんもその一人で、釜石での捕虜時代の体験などを手記「ネルとその子らにキスを」にまとめています。

また、私の母が学徒動員で大橋鉱山で働いていた時、欧米の兵隊さんが毎朝、きちっと隊列を組んで行進してくる姿や、口笛を吹きながら仕事から帰っていく様子など印象深く覚えています。

また、アガペの旅で、恵子と共にイギリスから訪日された元捕虜だった方々の中には、釜石で働いていた方もいたのです。そのような訳で、私は捕虜の方々と縁の深い釜石に一度、恵子をお連れしたい、と願っていました。

今回、その釜石で講演会を予定していましたが、ラグビーワールドカップと日程が重なってしまい、テレビなどでも報道されましたが、釜石の町はラグビーで盛り上がって、講演会を落ち着いて開ける様子ではなく、私の中学時代の親友の集う日詰教会を訪問することになりました。このことは、まさに神様の導きであったと、後で知ることになりました。釜石を訪問する予定だった12日に台風19号が東北地方に近づき釜石に行く列車も道路も不通になってしまったのです。

左より：絹子、美代子、恵子、啓子、誠、チャン氏

私の親友の絹子は、釜石に住んでいましたが、東日本大震災で自宅を失い、釜石を離れ、内陸の日詰に家族と引っ越しました。神様の大いなる御手により、絹子は日詰教会に導かれ、救われ、クリスチャンとなりました。

日詰教会の牧師先生は若い韓国人女性の宣教師の方と聞いていましたので、ぜひお会いしたいと思っていました。道が開かれ、私たちは日詰を訪問できました。恵子は開口一番、牧師の張（チャン）氏に謝罪し、アガペの心を説明しました。12日には、恵子が教会の皆さんにアガペのことを話す時間が持たれ、皆が心を開いて聞いてくれました。13日の日曜礼拝でも、恵子と私が証をさせていただきました。皆が私たちの訪問を喜んでくださり、特に、絹子とはゆっくりと信仰のことをお話しする時間が持て、恵子、啓子とも良きお交わりが持て、幸いな時間でした。細部にいたるまで、神様の配慮を感じた旅でした。来年の秋には、釜石新生教会で恵子が話しをする予定になっています。

10月17日には、横浜市金沢区にある関東学院大学のキリスト教講演会の講師として、恵子が話しました。大学宗教教育センター主催で、学生、一般を含めて約130名の参加がありました。大学チャプレン室の方々、また、宗教主事の豊川先生方がよく準備して迎えてくださいました。後日、大学の定期刊行誌に豊川先生がこの講演会のまとめを載せているので、少し引用させていただきます。

『講演会後の質疑応答の時間では、学生からの積極的な質問もあり、ホームズ氏の熱のこもった講演が学生の心に響いた様子であった。平和と和解のために自分には何ができるのか学生それぞれが自問したことであろう。

聖書の言葉を多く引用して、信仰に基づく平和と和解の創出の大切さを熱意を込めて学生たちに語ってくださったホームズ氏に心より感謝する次第である。』

豊川先生は、保土ヶ谷の英連邦墓地での追悼礼拝の手配やご自分のゼミへの招待など、来年のアガペツアーに協力を申し出てくださいました。

また、関東学院の英国人講師の紹介で、NHKの方もこの講演会に出席され、来年のツアーを取材したいという話に発展しています。

神様は恵子の行く先々で、素敵な出会いを用意していることを実感させられる日々でした。私は恵子の６週間の日本滞在のほんの数日をご一緒しただけでしたが、恵子は日本中を旅しながら、どれだけの人々と神様にある素晴らしい出会いをされたことでしょうか。いつも淡々と神様の喜ぶことをすることに徹している姿に感動します。

今回、この良き報告を皆様にできますことを、心から感謝いたします。

『あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けに受けになるのです。』（ヨハネ15：８）

支援会から

新しい年号（令和）の今年、振り返ると色々なことがありました。
嬉しい知らせやニュースも勿論、多くありましたが、一方で辛く、悲しいこともまたあった年でした。

今年は多くの台風が日本を襲いました.私が関わっている社会福祉法人賛育会の長野にある特養と医療施設（豊野事業所）も千曲川の堤防決壊による水害で大きな被害を受けました。
アフガニスタンからクリスチャンとして現地のために長年尽くしてこられた中村医師の殺害という悲しい便りもありました。

今年は、恵子さんが日本に来られる機会があり、わが家に泊まっていただき賛育会のチャリティコンサートにもお連れすることができました。

来年はいよいよ英国からピルグリムの方が日本にいらっしゃいます。私たち夫婦も長崎、平戸などをご一緒する予定でおります。
今年もあとわずかです。楽しいクリスマスの時をお過ごしください。そして希望に満ちた新しい年をお迎えになりますように。

皆様からの変わらぬご支援を感謝しつつ。
支援会　小堀　洋志・豊代子